

インド金融政策（2023年6月）

利上げ局面はすでに終了している可能性が高い

2023年6月8日

中銀のタカ派姿勢は、早期の利下げ期待のけん制が狙い

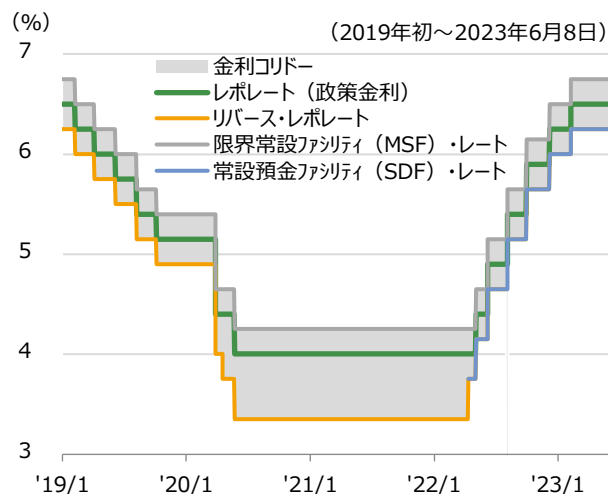
インド準備銀行（中央銀行）は6月8日（現地）に終了した金融政策決定会合で、市場予想通り全会一致で政策金利であるレポレート¹を6.5%に据え置きました【図表1】。ただ、声明文や中銀総裁の記者会見は、タカ派姿勢がうかがえる内容となり、また、中銀総裁は早期利下げ観測をけん制する発言をしました。

市場予想では、中銀が今後の利上げの可能性に含みを残した「金融緩和の解除に引き続き焦点をあてる」との声明文の文言を削除し、明確に利上げ打ち止めを宣言すると期待されていましたが、この文言は踏襲されました。天候不順などによりインフレ率が上振れした場合、利上げ再開の余地を残した格好です。ただ、中銀はエルニーニョ等の動向に注視するとしつつも、インフレ率の上振れを想定していません【図表2】。そのため、利上げが再開される可能性は低いとみられます。

一方、中銀総裁は早期の利下げ期待をけん制しました。記者会見では、インフレ率が中銀の許容範囲の4±2%に収まるだけでは不十分として、とりわけ物価目標値4%の達成とともに期待インフレ率の安定を強調しました。これを受けて、少なくとも2024年3月末までは利下げしないとの見方が強まっています。

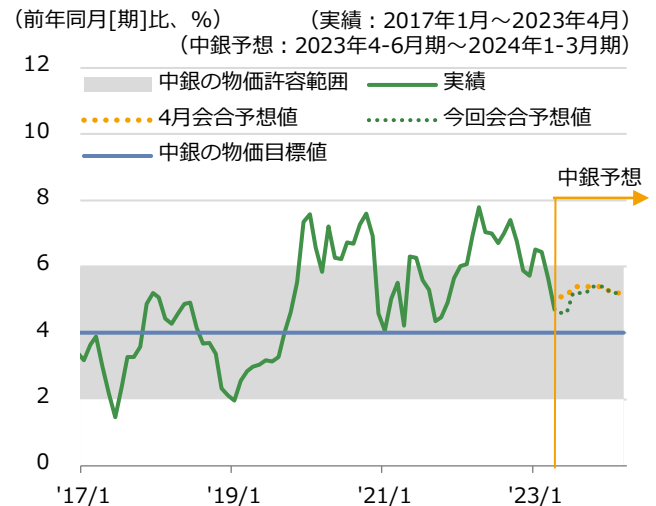
景気に関して中銀は、外需の鈍化等を懸念しつつも、家計消費と投資活動の改善を背景に明るい景気見通しを維持し、2023/24年度（2023年4月～2024年3月）の実質GDP成長率を前年比+6.5%に据え置きました。インドの好景気が再確認され、株式市場は外国資金が流入しやすい環境といえそうです。

図表1 主要政策金利および金利コリドー



※金利コリドーとは、銀行間オーバーナイト金利の誘導目標レンジ。中銀は22年4月8日にコリドーの下限を変更。(出所) ブルームバーグ

図表2 消費者物価指数



(出所) ブルームバーグ、インド準備銀行

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。